

暫定一覧表
記載文化遺産

飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群

詳しい情報は
こちらから



「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」には、飛鳥宮跡、藤原宮跡をはじめ、飛鳥京跡苑池、大和三山などの宮殿関係遺跡や、飛鳥寺跡、山田寺跡、本薬師寺跡などの仏教寺院、石舞台古墳、高松塚古墳、キトラ古墳などの古墳が含まれ、6世紀末から8世紀はじめにかけての我が国に建設された宮都の姿を表しています。

この時代、中国や朝鮮半島との活発な交流を通じて、独自の政治制度や技術、宗教が発展し、日本文化の原型が形成されました。

「飛鳥・藤原」には、その当時の姿を伝える遺跡が良好に残っています。

これらの点をアピールし、世界遺産登録を目指しています。



高松塚古墳壁画 西壁女子群像
© Mehdan

飛鳥宮跡 [国指定史跡]



乙巳の変(大化改新)のはじまりの舞台となった場所。「伝飛鳥板蓋宮跡」から名称が変更されました。

飛鳥京跡苑池 [国指定史跡・名勝]

池は石積みの護岸がなされ、底には石が敷き詰められていました。一部には島のような石積みもみられました。

飛鳥水落遺跡 [国指定史跡]

中大兄皇子が造った日本初の漏刻跡です。飛鳥川の水を使って時を計っていました。漏刻とは水時計のことです。

酒船石 [国指定史跡]



明日香を代表する石造物のひとつ。長方形に近い形の花崗岩でできており、酒造りに用いたと伝わることからこの名が付きましたが、用途はわかりません。

飛鳥寺跡 [国指定史跡]

蘇我馬子の発願で建てられた日本最古の本格的仏教寺院です。創建時の伽藍は失われ、塔や金堂の礎石だけが残っています。

橘寺境内 [国指定史跡]



厩戸皇子(聖徳太子)生誕の地とされ、太子建立の七ヶ寺の一つです。建物は何度も焼失し、現在の伽藍は江戸時代以降のものですが、美しいタチバナ形の塔心礎が当時を物語っています。謎の石造物「二面石」があるのもこの橘寺です。

川原寺跡 [国指定史跡]



飛鳥寺、薬師寺、大官大寺とともに飛鳥四大寺に数えられ、斉明天皇の冥福を祈り息子の天智天皇が建立したとも言われていますが、未だ創建については謎が多く残されているお寺です。創建時の姿は飛鳥資料館の模型で見ることができます。

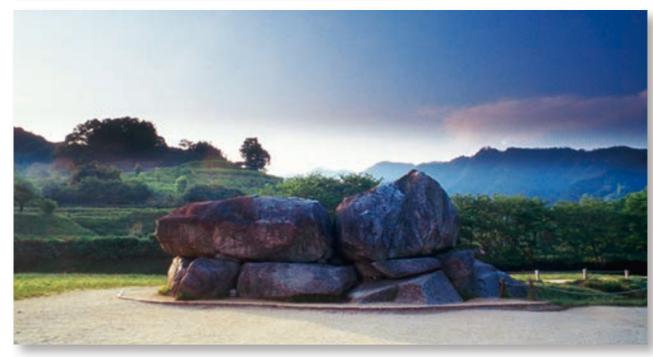
大官大寺跡 [国指定史跡]

文武天皇の頃には九重塔や金堂が完成し、荘厳をきわめたといわれます。

檜隈寺跡 [国指定史跡]

渡来人である東漢氏の氏寺。現在は、於美阿志神社の境内になっています。

石舞台古墳 [国指定特別史跡]



蘇我馬子の墓と伝えられる石舞台古墳は、わが国最大の方墳です。月の夜、狐が美女に化けてこの上で舞ったという言い伝えがあります。外から見ても、中をのぞいてもその大きさには圧倒されます。

牽牛子塚古墳 [国指定史跡]

被葬者は、川嶋皇子とも浅香王ともいわれたが、斉明天皇と間人皇女という説が有力です。石槨の構造、夾紵棺、古墳の位置等から天皇家を含めてその一族に連なる被葬者が推定されます。

中尾山古墳 [国指定史跡]

高松塚古墳の直ぐ北にある三段構造の八角形墳。火葬骨を埋葬した精巧な古墳として知られています。

キトラ古墳 [国指定特別史跡]



埋葬者は不明。古墳の石室内部の壁画には、古代の神獣である四神や世界最古といわれる星宿図などが描かれ、東アジア文化の流れを考える上で重要なものと考えられています。キトラの名称は、周辺の地名の「北浦」がなまったという説や、盗掘に入った人間が玄武の亀(キ)と白虎(トラ)を見たという伝承からきたという説があります。



キトラ古墳 壁画体験館 「四神の館」

高松塚古墳 [国指定特別史跡]



飛鳥の西南、檜隈の里の文武天皇陵近くにあり、昭和47年に彩色壁画(国宝)が発見され一躍有名になりました。被葬者についてはかなり高貴な人物とされています。本物の壁画は修復中のため見ることはできませんが、古墳西隣には高松塚壁画館があり、極彩色の壁画の模写や復元模型が見られます。



高松塚古墳壁画 西壁女子群像
© Mehdan